

み

か

い

安住院便り (第19号)

平成19年8月1日発行
〒703-8236
岡山市国富3丁目1-29
住職 生駒琢一
TEL(086)272-2320 FAX(086)273-9327

尊勝宝塔・御本尊

現在修復中の、安住院多宝塔については、多宝塔と言うのは通称で、密教では大日如来そのものを示すのですが、当院の塔は「尊勝宝塔」と呼ぶのが正式名称です。それは、創建時の棟札を見ても『奉新造尊勝寶塔一基成就所右者奉為金輪聖皇寶祚長遠矣』と描かれています。この尊勝とは、仏の頂、即ち頭脳を仏格化した仮頂尊の中で最高の尊、尊勝仮頂を示します。それはまた大日如來と同様であるとも考えられ、大日如來を中心とした尊勝曼荼羅という尊像があります。その曼荼羅で智証大師円珍上人が中国から持ち帰られたものは、大日如來と、不動・降三世明王の三尊像です。その形を今に伝えて有名なのは、大阪府河内長野市・金剛寺本堂の国宝三尊像です。このような尊形は非常に珍しいのですが、安住院多宝塔の御本尊もこの（大日如來・不動・降三世）三尊像なのです。その理由は不明ですが、貴重な仏様なのです。



その三尊は塔内では東に向かつて座しておられ、その像を拝むには西に向かいいます。そしてその視線の先には、岡山城の天守閣を望みます。創建当時は藩主池田継政公ですが、代々の藩主の家運長久を願い、岡山藩の安泰を祈念したのは確かです。その願いの仏尊が尊勝曼荼羅仏であつたのです。この尊は京都のある真言宗寺院では、秘法として崇められていたことも事実で、国家として崇められていたことも事実で、国家安泰の中心となる仏尊でありました。その尊を祀った宝塔を建立した二百五十年前の安住院住職は龍豊僧正で、この僧正は岡山に真言密教を弘めるのに尽力された方で、高野山から大徳真源僧正を迎えて真言密教の秘儀である灌頂という儀式を行ない、僧侶だけでなく何千人という檀信徒の方にも法縁を伝えておられます。その関係の方々が、塔の創建の為、淨財を寄進してくださいさつたのは、間違いないでしょう。

その時の龍豊僧正は五十歳を少し越えていました。ちょうど、現在の安住院住職と同じ年齢です。藩主だけでなく檀信徒住民全ての平和の為、この尊勝宝塔を何としても創建しようとされた僧正の願いを、受け継いでいくことが、安住院住職第九十五代としての使命とも考えます。ご協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。

多宝塔修復工事公開



六月二十六日・二十七日の両日、現在修復中の安住院多宝塔の工事状況の公開が行われ、両日で約千人の見学がありました。

昨年来より解体作業が進められ、骨組みのみになつた塔を皆様に見ていただきたく計画されました。屋根替えは何度か行われていますが、木組みの細部までの解体は創建以来のことと、二五〇年前の材料が確認出来ました。

当時の建築に携わった人々の苦労が手に取るようで、これまで沢山の木材が使用されることに、驚かれた方

青葉祭り法会厳修

六月十五日、真言宗岡山市内結衆恒例行事の弘法大師降誕会「青葉祭り」が安住院で開催されました。



安住院本堂に楠の青葉を飾り、大師稚児尊像を祀り、御詠歌・讚歌などと一体となり、法会が厳修されました。

その後、岡山市玉柏（上興院）新後雅弘僧正の法話や余興、福引きと続き、千二百三十四年前の大師の御誕生を御祝い致しました。

中国観音靈場参拝②

今年の四月十九日～二十日、中国観音靈場参拝の第二回日を行いました。

今回は、岡山から距離的に一番遠い山口県にある札所で、第十五番・漢陽寺から第二十一番・觀音寺までの七ヶ寺と山口の瑠璃光寺、萩の松陰神社などを回りました。

今回は山道も少なく、全員ゆっくりと歩いて、気持ちの良い天候の中で、お参りすることが出来ました。

山口・萩は、大内・毛利両家の多くの大名の庇護を受け、また幕末明治維新から現代まで多くの政治家を輩出した場所で、文化的な味わいも深い所です。札所もその関係の古刹も多く、静かに佇む雰囲気の中、数々の建物を見ながらの参拝でした。中でも瑠璃光寺の国宝五重塔の素晴らしさに、深い感動を覚えました。

次回の予定は、十月十五日（月）・十六日（火）です。

